

クロトガリザメ 全水域

Silky Shark, *Carcharhinus falciformis*

利用・用途

肉は生鮮食品や塩干物として食用に利用される。鰓はフカヒレスープの原料、皮は革製品の材料として利用されるほか、肝臓からはビタミン類が抽出され工業用、化粧品用等に利用される。

管理・関係機関

全米熱帯まぐろ委員会 (IATTC)
大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)
インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)
中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

最近の動き

2013 年に WCPFC により中西部太平洋系群の資源評価が行われ、現在の漁獲は過剰な状態にあり、資源も乱獲状態の可能性が極めて高いとされた。2014 年には IATTC により東部太平洋系群の資源状態の傾向分析が行われ、1990 年代初期～中期にかけて CPUE が大きく減少し、その後は比較的安定して推移していることが示された。インド洋系群については、2017 年に資源状態の傾向分析が行われる予定である。

生物学的特性

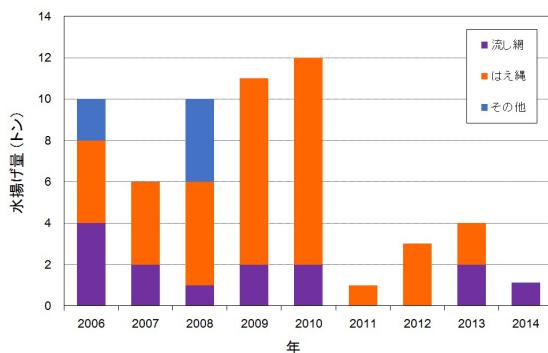
- 体長・体重：全長 3.5 m・346 kg
- 寿命：22 歳
- 成熟開始年齢：雄 6～13 歳、雌 6～15 歳
- 繁殖期・繁殖場：交尾期；晚春（5～7 月）、出産期；晚春（5～7 月）～初夏または周年
- 索餌期・索餌場：調査中
- 食性：魚類
- 捕食者：調査中

漁業の特徴

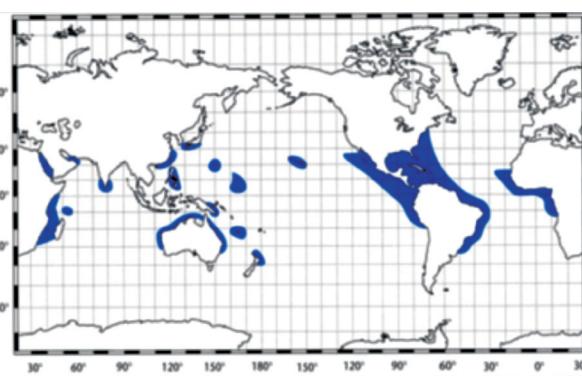
はえ縄やまき網漁業によって混獲される。まき網漁業では、集魚装置 (FAD) を用いた操業での混獲が多く、混獲される板鰓類の 90% を占めるとされる。メキシコ湾やカリブ海では、本種を対象とした漁業が存在し、フカヒレスープの原料として鰓の採取を目的とした利用が進んだ結果、個体数が大きく減少した。東部太平洋では、本種はまき網、はえ縄、沿岸小規模漁業によって混獲されており、国別にはメキシコ、中央アメリカが漁獲量の大部分を占めている。インド洋においては、混獲のほか、遊漁、沿岸小規模漁業、準産業規模の漁業によって漁獲される。スリランカでは、本種を対象とした大規模漁業が存在する。日本においては、はえ縄及び流し網によって漁獲されている。

漁獲の動向

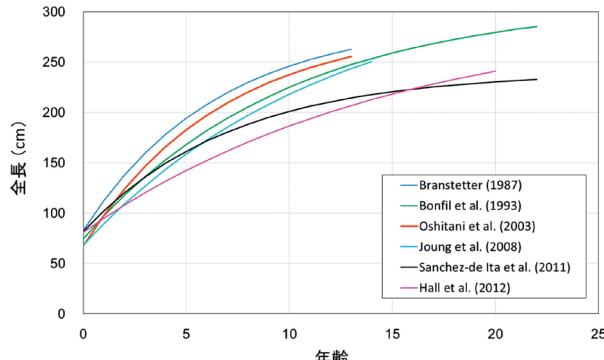
我が国の主要漁港におけるさめ類の漁法別・種別水揚量の調査では、本種の種別の水揚げ量の記録が開始された 2006～2014 年における本種の総水揚量は 10～12 トンでその内はえ縄による水揚量はクロトガリザメ総水揚げ量（2006～2014 年の合計値）の 65%、流し網による水揚げ量は本種の総水揚量の約 24% を占めている。水揚げが記録された 2006～2014 年の期間のデータによれば、6～12 トンの範囲で推移している。2011 年には東日本大震災による影響により水揚げ量は 1 トンまで減少し、2012～2013 年には 3～4 トンまで増加したが、2014 年には気仙沼近海はえ縄漁業者による自主規制によりはえ縄による水揚げがなくなったため、1 トンまで減少した。



日本的主要漁港へのクロトガリザメの水揚量



クロトガリザメの分布 (Last and Stevens 1994 より引用)

資源状態	管理方策のまとめ										
<p>中西部太平洋系群については、現在の努力量が FMSY を大きく上回り ($F_{\text{current}}/F_{\text{MSY}}=4.48$)、産卵親魚量も MSY レベルを下回る ($SB_{\text{current}}/SB_{\text{MSY}}=0.7$) ことから、現在の漁獲は過剰な状態にあり、資源も乱獲状態の可能性が極めて高いと結論付けられている。</p> <p>東部太平洋系群については、利用可能な情報に基づく資源状態の傾向分析が行われ、1990 年代初期～中期にかけて CPUE が大きく減少し、その後は比較的安定して推移していることが示された。</p>	<p>■ WCPFC、ICCAT：保持禁止。</p> <p>■ IATTC、IOTC：漁獲されたさめ類の完全利用及び漁獲データ提出。</p>										
管理方策											
<p>ICCAT、WCPFC においては、船上保持禁止措置が導入されている。IATTC 及び IOTC においては本種を対象とした保存管理措置はないが、漁獲されたさめ類の完全利用（頭部、内臓及び皮を除く全ての部位を最初の水揚げ又は転載まで船上で保持すること）及び漁獲データ提出が義務付けられている。</p>	 <p>クロトガリザメの成長式 (Branstetter 1987, Bonfil et al. 1993, Oshitani et al. 2003, Joung et al. 2008, Sanchez-de Ita et al. 2011, Hall et al. 2012 より引用)</p> <p>図は年齢 (0 から 25 年) と全長 (cm) の関係を示す成長曲線図。複数の研究による成長式が示されています。Branstetter (1987) は最も初期のデータで、他の研究による式はその後のデータに基づいています。年齢 0 で全長約 70cm、年齢 25 で全長約 280cm の範囲で成長曲線が示されています。</p>										
資源評価のまとめ	クロトガリザメ(全水域)の資源の現況(要約表)										
<p>■ 中西部太平洋系群：現在の漁獲は過剰な状態にあり、資源も乱獲状態の可能性が極めて高い。</p> <p>■ その他の系群：資源水準の推定は行われていない（東部太平洋系群については、資源状態の傾向分析は実施。インド洋系群については、2017 年にインディケータ解析が行われる予定。）。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <td>資源水準</td><td>低位（中西部太平洋）</td></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資源動向</td><td>減少（中西部太平洋）</td></tr> <tr> <td>我が国の漁獲量（最近 5 年間）</td><td>1～12 トン 平均：4 トン (2010～2014 年)</td></tr> <tr> <td>最新の資源評価年</td><td>2013 年（中西部太平洋） 2014 年（東部太平洋）</td></tr> <tr> <td>次回の資源評価年</td><td>2017 年（インド洋）</td></tr> </tbody> </table>	資源水準	低位（中西部太平洋）	資源動向	減少（中西部太平洋）	我が国の漁獲量（最近 5 年間）	1～12 トン 平均：4 トン (2010～2014 年)	最新の資源評価年	2013 年（中西部太平洋） 2014 年（東部太平洋）	次回の資源評価年	2017 年（インド洋）
資源水準	低位（中西部太平洋）										
資源動向	減少（中西部太平洋）										
我が国の漁獲量（最近 5 年間）	1～12 トン 平均：4 トン (2010～2014 年)										
最新の資源評価年	2013 年（中西部太平洋） 2014 年（東部太平洋）										
次回の資源評価年	2017 年（インド洋）										

※その他の海域については、資源評価が未実施または未確定